

物語『願いのかなうまがり角』 岡田 淳 / 作 田中 六大 / 絵 偕成社



ずっと聞いていたくなるおじいちゃんのお話

おじいちゃんがぼくに話してくれるお話は、スケールが大きくて、びっくりするようなお話ばかり。雨の中を空まで泳いでカミナリさまに会いに行ったり、玉入れを百発百中で入れられる方法を知っていたり、バレンタインに世界中からチョコをもらっていたり、雪の精となかよくなれたり、どんな願いもかなうまがり角を知っていたりするのです。

おどろくようなお話ばかりですが、おじいちゃんの話は本当なのでしょうか？本当ではなくても、面白くて、楽しかったら、それでいいですよ。どんどん次の話が聞きたくなります。

短いお話が全部で7話入っていますよ。

物語『ねこと王さま』 ニック・シャラット / 作・絵 市田 泉 / 訳 徳間書店

ねこと王さまのとってもユニークな暮らし

王さまと、ともだちのねこは、お城で幸せに暮らしていました。

ところが、ある日、ドラゴンが火をふいて、お城をもやしてしまったのです。

そこで、ねこと、王さまは、新しくすむ家をさがして、いっしょに暮らすことにしました。王さまは、それまで、仕事をめしつかいにたのんでいたの、王さまの仕事しかしたことがありませんでした。優しく、かしこいねこに教えてもらいながら、王さまは、買い物に行ったり、バスに乗ったり、料理をしたり、初めてのことにもちょう戦してがんばります。

ねこと王さまが暮らしている様子がとってもユニークで、楽しいイラストもたっぷりなので、とても読みやすい物語です。

王さまは、最後にとても大切なことにも気付けたようですよ。



物語『科学探偵VS.学校の七不思議』 科学探偵謎野真実シリーズ 1巻

佐東みどり・石川北二・木滝りま・田中智章 / 作 木々 / 絵 朝日新聞出版



科学でナゾを解き明かします

花森小学校の6年2組に、エリート探偵育成学校であるホームズ学園から、謎野真実と言う少年が転校してきます。

花森小学校には、七不思議と呼ばれる不思議でこわいワザがありました。理科室にある人体模型が歩いたり、音楽室にあるベートーベンの肖像画が笑ったり、12段しかない階段が13段になったりすることがあるそうです。

この七不思議を、謎野真実は、「科学で解けないナゾはない。」と言い、クラスメートの宮下健太とともに、科学的に解決していきます。科学的な証明があると、思わず、「なるほど。」と、納得してしまうのではないのでしょうか？

物語『葉っぱの地図』 ヤロータウンゼンド / 作 井上里 / 訳 小学館

植物の声が聞こえる少女の大ぼう険

オーラと母は、植物がたくさん生えた庭のある家に住んでいました。オーラの母は、植物と話すことができ、植物から薬を作り、病気やケガの人を助けていました。しかし、病気ににかかってしまい、亡くなってしまったのです。おすめのオーラも、母と同じく植物と話す才能を持っていました。

近ごろ、町でなぞの病気が流行り、原因が植物ではないかという噂が流れ、オーラの庭の植物も処分されようとしていました。そこで、オーラは、病気の本当の原因をつき止め治りよう薬を探すため、母の大切にしていた庭と愛馬を守るため、母が残してくれた植物について書きこまれた手帳をたよりにぼう険に出ることにしました。勇敢な少年イドリス、お屋敷に住むおじょうさまのアリアナも、ある事情をかかえながら、ぼう険をともにすることに。

母が亡くなって以来、だれにも心を開いていないオーラですが、仲間とともに、病気の治りよう薬を探し出すことはできるのでしょうか？

